

坊ガツルの歴史

標高約 1200m の高さに広がる坊ガツル湿原は、平治岳と大船山に囲まれており、くじゅう連山の中心に位置しています。この標高の高さは、アヤマやキキョウなどの植物が自生する、固有の湿原環境をもたらしています。

久住山の麓に火山性温泉によって形成された坊ガツル地区は、ラムサール条約の登録湿地となっています。希少な生態系を持つ湿地や、湿原独特の生物多様性保全のために重要な地域がラムサール条約湿地に認定されます。2005 年、坊ガツル湿地は珍しい草や植物、水生昆虫や野生の鳥類が生息する生態系があること認められ、ラムサール指定の基準を満たす湿原として、ラムサール条約湿原として登録されました。

湿原とその周辺の山々は、いくつもの登山コースが存在し、長い間、自然愛好家や登山者に親しまれています。この地域の在来種を保護し、湿原の自然環境を維持するために、訓練された地域の人やボランティアによって、野焼き、伐採、外来種の撲滅、山道の維持などが行われてきました。